

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ
市議団ニュース

<3定・決算特別委員会>

2020年10月26日

No. 233

日本共産党札幌市議団 事務局
tel 211-3221/fax 218-5124

コロナ禍の中 定山溪への誘客と温泉街への周遊促進を

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は16日、決算特別委員会でコロナウイルスの感染拡大で打撃を受けている本市の基幹産業の一つの観光業、中でも定山溪の観光回復が重要と振興促進について質問しました。

村上議員は、定山溪観光協会前事務局長から以前に、「インバウンドで来てくれるのは嬉しいけど、果たしていつまで安定して来てくれるのかという点では非常に心配」と話していたことを紹介し、「それが、コロナという形で現実のものになった」「今後、定山溪の観光振興を進めるうえでは、インバウンドと国内客のどちらかだけに偏るのではなく、バランスが求められる」と、コロナ後の誘客の取り組みと効果を質問。石川観光・MICE推進部長は、市民の宿泊を促す地域クーポン配布やプレミアム付きクーポン券販売事業等への支援を行い、「観光需要の回復に一定の効果をもたらした」「市民が定山溪の魅力に再認識するキッカケになった」と答えました。

村上議員は、党市議団として、定山溪観光協会との懇談と現地視察を重ね、「2017年から6回にわたり定山溪地区のトイレや駐車場などの整備に関する質疑を行ってきた」「私も、協会の方の案内で二見公園のトイレを視察したが『丸見え』。協会の皆さんから『ここをなんとか改善して』と強い要望を受けた」ことを紹介。市も、トイレ整備やまちづくりセンター横の敷地に公共駐車場を整備し、集客交流拠点を作るなど「基礎的なインフラ整備としては大きく前進した」としながら、村上議員は、「環境整備だけにとどまらず、駐車場への案内看板など、周遊を促す工夫が必要」と質問しました。石川部長は、観光協会のイベントや景観づくり、観光スポット施設の歴史を案内する取り組み等に対する支援とともに、「今後も、観光地としての魅力向上に努める」と答弁。

村上議員は、温泉街全体の周遊を図るため、現在整備を進めている駐車場に観光案内板を設置すること、さらに地元からも要望として出ている「湯の町への駐車場の整備」に取り組むことを提案しました。

鳥獣対策 区域の区別なく対策を“ご指摘通り・調査する”

長屋いずみ議員が質問

日本共産党の長屋いずみ議員は16日、決算特別委員会で有害鳥獣対策事業について質問しました。

長屋議員が、農政部では、有害鳥獣対策事業としてキツネ、エゾシカ、ヒグマ等の野生鳥獣被害防御用電気柵の普及・設置を、山林に近い農地や果樹園などの市街化調整区域の農業者へ補助しているが、「有害鳥獣対策事業の対象区域を市街化調整区域とした根拠について」質問しました。新谷農政部長は「市街化調整区域内の農地で営農する生産者を補助対象としている。市街化区域は、市街化調整区域に比べ、転用により農地以外の利用となる可能性が高いため、市街化調整区域に限定して補助対象区域としてきた」と答弁しました。

長屋議員は、「ヒグマの目撃情報が相次いでおり、環境局では、市街化区域の市民を対象に家庭菜園用電気柵の貸し出し、また、今年度から家庭菜園用電気柵購入補助金交付事業も始めている」。昨年ヒグマが出没した南区藤野地域の農業者が、「市街化区域に住んでいたため助成が受けられない」との訴えを紹介し、「市街化区域の家庭菜園だと助成され、市街化区域に住んでいる農業者は助成対象にはならない」と指摘し、「対象を市街化区域の農業者へも拡大し助成すべき」と質しました。新谷農政部長は、「委員ご指摘の通り、市街化区域で営農する生産者が被害を受けることから、今後、営農実態や被害状況などを調査する」と答弁しました。しかし、長屋議員は、本市のヒグマ基本計画には、「市街地周辺ゾーンは、侵入抑制策を講じるうえで重要なゾーン」として、市街地と森林の間の地域、山林に接した住宅、公園、家庭菜園、農耕地、河川、施設等としているとして、「市街区域と調整区域の区別なく対策が必要ととらえ急ぎ補助すべき」と、ただちに実施することを求めました。